

日本藻類学会第41回大会開催記・参加記

高知大会はいかがでしたか？

奥田一雄・峯 一郎

日本藻類学会第41回大会（高知）は、平成29年3月23日（木）～25日（土）の日程で、高知大学朝倉キャンパス（高知市）で開催されました。大会参加者は240名（うち学生87名）に達し、また、研究発表は156演題（口頭68題、ポスター88題）を数え、さらに懇親会には172名の方々に参加いただきました。例年この時期になると咲き始める桜がこの年は堅いつぼみのままで、南国土佐といっても大会期間中はかなり寒く感じました。しかし、参加者同士でなされた熱心な研究発表と活発な意見交換・討論のおかげで、高知大会が熱く盛会のうちに無事に終えることができました。心から厚くお礼を申し上げます。

四国で藻類学会が開催されたのは2回目ですが、前回第19回大会も高知で開催されました。本大会はそれ以来22年ぶりとなりましたが、両者を比べると、大会の規模が顕著に大きくなりました。例えば、研究発表数で見ると、前回は72演題であったのに対して今回は156演題となり、実に2倍以上に増えています。特にポスター発表の数が増えました。当時はポスター発表とは言わず、展示発表と呼んでいました。前回はホテルが多数ある播磨屋橋周辺に立地する高知城ホール（口頭発表会場は1つ）で開催しましたが、大会規模が拡大したということで、今回は高知市中心部から少し離れた高知大学朝倉キャンパスの講義室を活用することにいたしました。さすがに大学なので教室はたくさんあり、口頭発表や公開シンポジウム等のための階段教室2室の他、ワークショップ会場や休憩室、試写室、クロークなどのスペースも確保し、また、活況を呈して少し狭く感じるときもありましたが、ポスター会場も2つ設けることができました。なお、休憩室に準備した高知特産のお菓子や飲み物などは、県内のメーカー数社から寄付をいただいたものでありました。

研究発表等のスケジュールのかたわらで、2つのワークショップ（「原生生物学会出張ワークショップ：原生生物学会的藻類学研究的紹介」と「クロレラと気生藻の魅力ー採集・観察から分類・バイオマス生産（講義編・実習編）」）を企画していただきました。また、公開シンポジウム「高知・四国の藻類」、およびエクスカージョン「高知大学海洋生物研究教育施設での海藻採集会」も大盛況でございました。これらのイベントは多くの会員の方々のご協力のおかげで滞りなく実施できました。なお、大会プログラムの印刷等には、和文誌編集委員会の中山剛先生に尽力いただきました。



口頭発表会場



ポスター発表会場



公開シンポジウム「高知・四国の藻類」

土佐は酒飲みの国です。22年前を知る数名の会員から、「高知の懇親会はやっぱりお座敷ですね!」、というご要望をお伺いしておりました。今回は最大200名が寄り合える大広間を見つけました。お座敷での懇親会は、とくに外国人留学生には衝撃的であったようです。「立食だと誰がどこにいるか分からないけれども、お座敷だとちょっと立って見渡せば人の分布がひと目でわかる」。このように、お座敷のメリットを指摘される方もおられました。来賓で挨拶いただいた脇口宏高知大学長が藻類学会の参加者の面々をご覧になって言



懇親会風景 大野正夫先生による乾杯のご発声（上）

われたことは、「藻類学会には若い人がじつにたくさんおられますね。私が属する小児科学会とは大違いで、本当にうらやましいです」。中堅・若手が着実に育ち、この日本藻類学会がますます発展していくことをそのときに確信しました。

今回は学会本部のある大学で本部業務と同時に大会を開催することとなり、また、いくつかの大学で卒業式の日と大会日程の一部が重なったことなど、準備や運営の面で多々至らないところがあったことをお詫び申し上げます。この高知大会を有意義なものにし、成功裡に終えることができたのは、参加者のみなさまをはじめ、各種イベントを企画された会員の方々および関係諸氏の多大なご協力のおかげであります。改めて深くお礼を申し上げます。

（高知大学）

日本藻類学会第41回大会エクスカージョンに参加して 星野雅和・長尾優作

採集会について

本エクスカージョンは、2017年3月26日に高知大学総合研究センター海洋生物研究教育施設にて開催されました。

磯採集は午前中、井の尻漁港から船で10分ほどの白の鼻（藻類51, pp131-134, 2003年に紹介記事があります）で行われました。白の鼻は外洋に面しており、多少波がありましたが採集には差し支えありませんでした。磯にはヒジキ、カゴメノリを初めとした様々な海藻が生育しており、しばらく一心不乱に海藻採集が行われ、バケツ一杯になるまで採集した方も見受けられました。白の鼻での採集から戻る際、内湾の萩崎で、島袋寛盛さん、田中幸記さんが潜水にてホンダワラ類などを採集して下さりました。他の参加者は実習船からその採集風景を眺め、しばし歓談しました。

昼食休憩後、大野先生にもご参加頂き顕微鏡観察や同定、標本作成が行われました。顕微鏡を覗いたり、海藻の写真を撮ったりしながら議論を交わし、全体で緑藻3種：ポウアオノリ、ウスバアオノリ、*Ulva* sp., 褐藻17種：*Ralfsia* sp., ヘラヤハズ、ウミウチワ、シマオオギ、シワノカワ、フクロノリ、カゴメノリ、ハバノリ、カヤモノリ、ムチモ、ワカメ、カジメ、コブクロモク、ヒジキ、ヒイラギモク、トゲモク、ヤツマタモク、紅藻37種：マルバアマノリ、カモガシラノリ、ソデガラミ、ニセフサノリ、ガラガラ、ピリヒバ、サモアイシゴロモ、トゲイボ、ヒメモサズキ、クボミイシゴロモ、ミサキイシゴロモ、カサネイシモ、*Pneophyllum* sp.（本邦未報告）、ウミサビ、ヒメゴロモ、マクサ、オオブサ、オバクサ、フクロフノリ、マフノリ、コメノリ、タンバノリ、ムカデノリ、ヒラムカデ、*Grateloupia* sp., マタボウ、トサカマツ、スジムカデ、カギイバラノリ、トササイミ、オキツノリ、オオマタオキツノリ、ハリガネ、ベニスナゴ、ミゾオゴノリ、クロソヅ、*Laurencia* sp., 合計57種の海藻を同定しました。

採集会の感想

〈星野〉

私は自身の研究のためのカヤモノリ40個体を採集するという目標を立てて、今回のエクスカージョンに参加しました。白の鼻ではカヤモノリが数個体しか採集できないというアクシデントがあったものの、昼食休憩時に井の尻漁港で採集を続行したところ目標数のカヤモノリを採集することができ、本当にほっとしました。採集目標が達成できたこともうれしかったですが、先生方や学生の方と知り合うことができ、温泉に入ったり、おいしいごはんを食べたり、夜にはお酒を飲みながら研究のことや将来のことについてお話できたことが一番の収穫だったかなと思います。ただ一つ残念だったことは、磯採集の際にはカヤモノリしか眼中になく、実習室での同定・標本作成の際にはカヤモノリを塩蔵したり、培養チューブに移したり、シリカゲル乾燥標本にしたりを40回ほど繰り返していたために、高知に生えていた他の海藻についてほとんど記憶がないことでしょうか。最後に、この採集会の運営にご尽力いただいた高知大学の平岡雅規先生、田中幸記先生、高知大学海洋生物研究教育施設の皆様にこの場を借りてお礼申し上げます。

（北海道大学大学院理学院）

〈長尾〉

エクスカージョンに参加するのは初めての経験でしたが、今回の参加は非常に有意義なものとなりました。私は静岡以南の海で採集をしたことがなく、黒潮の影響の色濃い高知県で南方系の海藻が見られるのを楽しみにしていました。採集会では島袋さん、田中さんに寒空の下潜水して頂いたおかげ